

日大一般選抜 N方式について

年内入試も落ち着き、これから先は一般選抜へ向けた動きが活発化していくことになります。一般選抜に臨む生徒には、併願校の選定と受験日程の組み立てを具体的に進めてもらっています。本記事では、日本大学で行っている「N方式」という一般選抜の受験方式を紹介します。

日本大学一般選抜統一入試 N全学統一方式

ポイント① → 学部間併願、同一学部内の複数学科への併願もできる

複数の学部・学科を同一試験日、同一問題で併願できる。学部間併願はもちろん、同一学部内の複数学科への併願も可能で多彩な併願パターンを選択することができる。

ポイント② → 入学検定料の負担を軽減

入学検定料は18,000円(医学部60,000円、歯学部24,000円)のところ、付属生優遇により第1期のみ入学検定料0円で10学科まで出願可能。受験生の負担を軽減し、安心して受験に臨める。

N全学統一方式第1期

出願締切日:1月22日(水) 試験日:2月1日(土)

N全学統一方式第2期

出願締切日:2月25日(火) 試験日:3月4日(火)



「受験シーズンが本格化する前の2月1日に受験できること」と、「検定料が免除されること」ができる絶好の機会となっています。高3希望者を対象に、12月21日(土)終業式後に説明会を実施し、3学期始業式に出願作業を学校で行います。

受験スケジュール ~受験モードの体とは~

大学受験というものには第1志望に向かってひたすら努力するものですが、第1志望だけ受験すればよいというものでもありません。第1志望よりも難易度の低いとされる大学から受け始めて、理想としては段々と難易度を上げていき、最後に第1志望を受けるような受験スケジュールを立てることを目指します。このようにすると、段々と「受験モードの体」ともいうようなものができてきて、第1志望の時には実力を最大限に発揮できます。

というのも、朝早く起きて一人で会場に向かい、知り合いもいない中、本番の緊張感で受験する…これがいきなり第1志望では怖い。第1志望の時にはこのリズムや空気感に慣れた状態、つまり「受験モードの体」を作って試験に臨めるように受験スケジュールを立てましょう！

とは言っても、とにかく受験しまくればよいというものでもありません。体力の問題と入学手続き締切日の問題があります。まず、卒業生や大手予備校の情報によると、大体7~9校程度を受ける人が多いようです。もちろんもっと少ない人・多い人もいますが、いずれにしても連続で受けるのは体力的に3日が限界と言われています。次に入学手続き締切日というのは、合格した後に入学金等を指定日までに納めないで入学の資格を失うというものです。

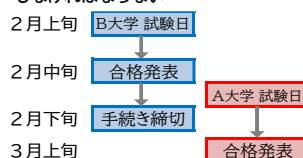
この日程がたとえば志望順位の高い大学の合格発表よりも前だと、一旦多額の入金をしなければなりません。

これらの点にも注意して、よりよい受験スケジュールを考えて「受験モードの体」を作りましょう！

★8校受験の理想のスケジュール

2月上旬	第6~8志望	易
2月中旬	第3~5志望	
2月下旬	第1~2志望	難

★A大学が第1志望だが、B大学に入学の可能性を残す場合、B大学に入金しなければならない



高3生から後輩たちへ

日本大学や他大学への進学予定の高3から、今年度実際に受けた試験について高1,2へ向けてアドバイスを書いてもらいました。先輩たちの熱い思いを受け取ってください。

【総合型選抜】

- ◆総合型で大切なことは、実績作り、自己分析、実際にキャンパスで雰囲気をつかむこと。実績作りも闇雲にやるのではなく、「自分の軸に沿った活動」を計画立てて行う。
- ◆自分の活動内容については、同世代で一番知っている「専門家」だと自信がつくくらいに、本や論文を読んだり、インタビューしたりする。
- ◆自分のやりたいことや将来の夢が決まっていると、総合型は有利。大学とのマッチ度を測られる入試でもある。
- ◆ホームページやパンフレット上の情報ではわからないことを知るために、現地に足を運ぶ。学科の雰囲気が知れたり、教授と話せる機会があったりして、エントリーシートや面接の際に役に立つ。
- ◆自分は部活動がアピールポイントにつながったので、学校生活でとにかく頑張ったことがあると良い。
- ◆どのあたりが評価されるかわからなかったの、とにかく「やる気」を感じてもらえるように意識した。やる気をどう可視化するかにについてしっかり考えた。
- ◆エントリーシートの提出にむけて約1か月で準備したため、完成がギリギリに。受験する総合型選抜のスケジュールをしっかりと立てる必要がある。
- ◆小論文は練習の回数をこなす。自分は本番までに90題程度は練習した。

【面接試験】

- ◆しっかりと目を見開いて相手の目を見る。やる気があるように見え、好印象を与えられる。
- ◆口頭試問に備えて、自分の選択科目や進学先で必要な科目の復習しておくべきだった。
- ◆志望理由や事前課題の内容、その大学の特徴、研究室の名称などの下調べをしておいて良かった。
- ◆「最近気になったニュース」は他の受験生と重なる場合があるので複数用意しておく。
- ◆志望理由は進学する明確な目的と、それに向けて高校生活で資格取得など何をしたか説明できるとよい。
- ◆回答で失敗したと思っても、面接官の方を向いて話し続けることが大切。
- ◆面接練習をすることはもちろん、それだけではなく、学びたい内容について深い知識をつけることが必要。
- ◆集団面接の練習をしておいて良かった。集団面接では必ずしも端から指名されるわけではないので要注意。
- ◆面接で自信をもって話すためには、全国大会出場やボランティア経験など、他の受験生とは違う経験をして、自分に自信を持つことがもっとも必要。
- ◆面接はたくさん練習して、さまざまな質問への対応力をつけておくこと。
- ◆面接の質問についての深掘りなどレポーターを増やすため、いろいろな人に面接練習してもらった。

【その他】

- ◆基礎学力の英語長文は難しい表現が多いため、限られた時間内で解く練習をしておいて良かった。
- ◆高3になって焦り始める人や高3でも志望先が決まっていない人が多い。早ければ高1、遅くとも高2の冬までには志望先を決めて、下調べをした方がよい。



高2小論文テスト ～志望理由書～

次の日程で高2の小論文テストを実施します。

《実施日》1回目 1月9日(木) / 2回目 2月14日(金)

今回の小論文テストは、「志望理由書」を書くテストです。志望理由書とは、進学を希望する大学等に対し、自分がどれほど進学したいと思っているかを伝える文章です。付属推薦で日本大学に進学する場合や指定校推薦、多くの大学での総合型選抜でも必要になることもあります。また、社会人になってからもこの会社に就職したい、転職したい、などを考えたときに志望理由書を書いた経験が役に立つこともあるでしょう。小論文テストの機会をいかして文章を書いて相手に伝える力を身につけましょう。

まずはじめに志望理由書を書くにあたり、その大学等で何を学ぶことができるか、どのような研究ができるか、将来どのような道にすすむ先輩が多いか、などを知っておく必要があります。そのために、現時点でのもので構いませんので、第一志望となる「大学・学部・学科」を決めて、それについてよく調べてください。特に、その大学・学部・学科の「アドミッション・ポリシー」を調べましょう。アドミッション・ポリシーには、大学側の「こんな学生がほしい」という思いが書かれていますので、「私はそれに適合する人材ですよ!」ということが伝わる志望理由書にしましょう。

冬季課題として、「マスターノート」を配付します。冬季休暇中にそれを全て埋めてきてください。Googleクラスルームに第1回の小論文テストを書く前に見る動画とレジュメをあらかじめ配信します。マスターノートに取り組んでいて行き詰ったときには動画やレジュメをみるといいヒントになるかもしれません。

第2回のテストでは、第1回に書いたものが添削されて戻ってくるので、添削を踏まえてもう一度書き直します。ここで完璧な志望理由書を書き上げることができ、希望する進学先が変わらなければあなたの志望理由書は完成します。今回の小論文テストを適当にやり過ぎて、あとで担任に泣きついて教えてもらうのではなく、自分のためにしっかりと小論文テストに取り組むようにしましょう。

高1小論文テスト ～ステップ基礎小論文～

1月9日(木)の5・6時間目に、小論文テスト①が実施されます。小論文とは、「自身の考え」を「小さいボリューム」でまとめるものです。しかし、主観的感想や意見を書くだけの作文とは、要求されるレベルが異なります。読解力や思考力、および論述力が試されるものです。そのため多くの大学では、総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜等において小論文試験を課しています。

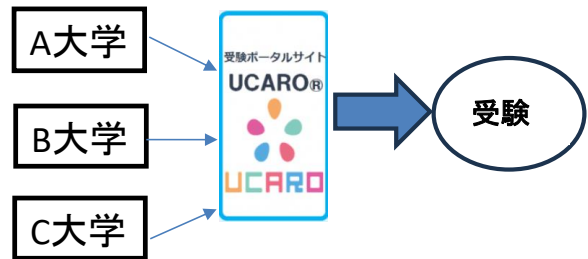
小論文のテーマは様々で、「課題文読解論述型」「図表分析型」「テーマ型」「英文問題」「理科論述型」「教科論述型」があります。例えば、日本大学経済学部(付属特別選抜事前小論文)では「テーマ型」でインバウンドとオーバーツーリズムのバランスをどうとるべきか、早稲田大学政治経済学部では「課題文読解論述型」でマスメディア・インターネットと政治的知識について、東京歯科大学歯学部では「テーマ型」でチーム医療における歯科医師の役割について問われています。このように小論文のテーマは複雑になりますが、重要なのは時事に関する知識と普遍的な知識の両方を兼ね備えていることです。つまり、日頃から新聞を読んだり、特定の分野の入門書を読み進めれば問題ありません。

では、なぜ小論文の力が必要になるのでしょうか。もちろん、大学入学後にはレポート課題がありますね。理系でいうところの実験レポートです。皆さんも一度は書いたことがあると思いますが、これは客観的な根拠を示すレポートです。つまり、論理的思考力と表現力がなければ書けないですね。4年生では多くの人が卒業論文を書きます。また、社会人になれば企画書等の作成が待っています。

このように、文章を書くことは今後の人生において必要なスキルになってきます。しかし、初めて小論文を書く人も多いと思いますので、冬季課題として「書き方ノート」を配布する予定です。また、2月14日(金)の3・4時間目には小論文講演と小論文テスト②もあります。これをいい機会だと思って取り組んでください。

受験生の味方UCAROの紹介

大学入試で今や必須となったUCARO(ウカロ)は皆さんご存じかとは思いますが、今年、112の大学が利用し、多くの受験生もスマホにダウンロードしているかと思っています。UCAROは無料で利用ができます。



上記の図のように、UCAROに各大学がデータを送り、受験生が一目でそのデータを見ることができ、自身のデータを一括で管理することができます。

また、UCAROでは以下のようなこともできます。

- ① 大学の情報(学部学科・特徴・オープンキャンパスなど)の閲覧
- ② 大学からの様々な案内を取得
- ③ 大学への出願・受験票の保存
- ④ 受験スケジュールの管理
- ⑤ 受験結果の閲覧
- ⑥ 入学手続き・入学金の支払い

大学によっては、UCAROの利用を受験生に義務付けて、UCAROを通して出願や入学手続きをする学校もあります。そのような大学ではUCAROを使用しないと、受験ができないということです。また、保護者向けにはUCARO familyがあり、一部機能を保護者と共有することができます。受験を控えている高3以外も、次年度以降はさらに機能が拡充されるはずですので、興味を持ってください。

12月の進路行事

	月	日
12月2日(月)	日大付属推薦合格発表 (高3)	日
	追加募集実施学部学科発表 (高3)	(
12月5日(木)	追加募集セレクション申告届提出(高3))
12月6日(金)	追加募集セレクション結果発表 (高3)	日直

12月2日(月)以降、日大の推薦受験や他大学の指定校受験等の可否結果が発表されます。対象になっている高3生は、必ず各自で確認し、担任へ報告をしてください。また、その後の入学手続きにおいても、手続きの完了報告をするようにしてください。

一般選抜に臨む予定の高3生は、これからの最ムカ力が伸びる時期です。頑張ってください。

日大の追加募集の流れについては、上記黒板のように基礎学力選抜と同様です。過去の記録を見ても、追加募集が出る学部は12月2日(月)の発表までは分からず付属推薦の結果次第にはなりますが、もしも対象になった場合はすぐに対応できるように準備を怠らないようにしましょう。

12月16日(月)までに大学入学共通テストの受験票が本校に届きます。高3の受験予定者には終業式の日に配布するので、その内容(会場等)を必ず確認して下さい。また、付属推薦等で既に合格している場合、共通テスト利用で他大学に出願することはありませんが、必ず受験をしてください。付属生以外の受験生は共通テストを受験して大学生になる人も多いので、1月でも自分の学力を維持できるようにしましょう。

次回1月号は、12月20日(金)発行予定です